



子どもの新型コロナ最新情報

～日本小児科学会HPから抜粋～

9月19日、日本小児科学会から子どものコロナワクチンについて新たな提言が示されました。

①5歳以上のすべての子どもに新型コロナワクチンの接種を推奨します。

ワクチンによるメリット（発症予防、重症化予防）がデメリット（副反応）を大きく上回ると判断したためです。

【メリット】小児の患者数が急増し、小児でも重症例や死亡例が増えてきていること。子どもでのオミクロン株を含めた重症予防効果が40～80%認められること。

【デメリット】国内では、まだ子どもへのワクチンは始まったばかりで十分なデータがないこと。

海外の知見では安全性が確認されており、副反応についての情報が収集されつつある。国内のデータから12～17歳の副反応発生率は成人とほぼ同等、5～11歳の副反応はより軽いことがわかっています。

②小児コロナの感染状況について：子どものコロナの95%は軽症ですが、クルーズ症候群、けいれん、肺炎、嘔吐・脱水、脳症、心筋炎などが報告されています。2022年1月～8月までに300例を超える重症、中等症例が報告されています。20歳未満の陽性者は現在460万人を超えており、そのうち10歳未満で15例、10歳以上で11例の死亡例が報告がありました。20歳未満で人工呼吸器による治療をうけた人も74例あり、小児の患者数が増加するにつれて重症例が増えていることがわかります。

小児のコロナワクチンを希望される方は今治市のワクチン推進本部(36-1621)までお電話ください。

今年はインフルエンザが流行るかも？

今年も10月からインフルエンザワクチンの接種が開始されます。日本では新型コロナが流行した3年前から現在までインフルエンザの発生はほとんどありません。季節が逆のオーストラリアでは5月～8月にインフルエンザの患者数が増加しました。オーストラリアでのインフルエンザの流行は日本の流行予測に参考になるとされ、今年の冬は日本でも流行するかもしれません。小児のコロナワクチンも現在実施されています。コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種が可能です。接種間隔は問いません。同時接種でも有効性が損なわれることはなく、副反応が増強することはないことが証明されています。

今治市在住で生後6か月～小学校6年生までのお子さんには1000円のクーポン券が発行されています。

ぜひご利用ください。



9月の感染症情報

9月に入り新型コロナの患者さんは急激に減少しました。中旬以降、発熱のお子さんが増えていますが、抗原検査でコロナ陽性となるお子さんは少なく、エンテロウイルスやライノウイルスなどの感染症ではないかと思われます。RSV感染症は、少ないながらも持続的な発生があります。



9月の利用状況

9月の利用延べ人数は38人で、1日の平均利用人数は1.9人で先月に比べて半減しました。年齢別では1歳児が20人で最も多く、次いで3歳児と4歳児の5人でした。疾患別では急性上気道炎が23人で最も多く、次いでRSV感染症の5人の順でした。その他、手足口病、扁桃炎、突発性発疹症による入室がありました。9月中旬から朝晩の気温が下がり過ごしやすくなりました。そのころから鼻かぜのお子さんが増えてきました。また気管支喘息発作で来院するお子さんも目立つようになりました。夜間は窓やカーテンを閉め、温かくして眠るようにしてください。